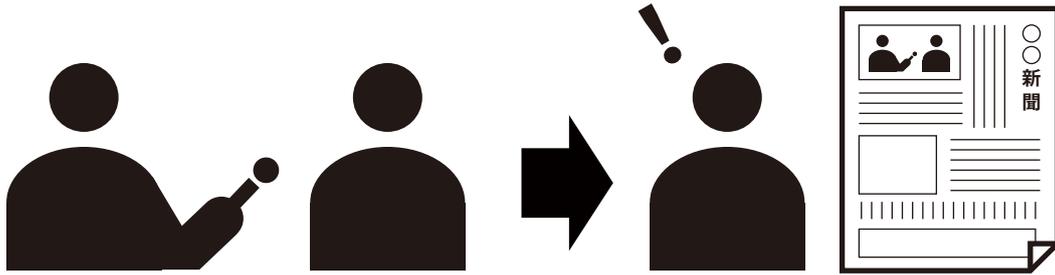


「とつげき新聞部」

まちの魅力を市民自ら調べ、発信するイベント



事業内容

このイベントでは、地域で関心事となっている題材について、実際にまちにくり出し、関係者や有識者に取材をし、資料を収集しながら壁新聞を作成します。「自分のまち」という全ての市民にとって身近なテーマであるので、イベントには小学生から退職後のシニアチームまで世代を超えて参加することができます。作成した壁新聞は、市民による手づくりのかわら版として施設に展示されます。その後、その内容を再構成して物語を作成し、演劇を上演するなど、市民の関心事をあらゆる文化芸術活動へと結びつけ、市民自らが施設をいきいきと活用する利用者になってもらうことを目標にしています。

実施することで得られる効果・可能性

情報発信

SNS などへの展開

実現する上での課題

市民の関心事を文化活動へ結びつけるディレクターの存在

「腕利きサポート部隊」 アーティストとの共同作業で表現の幅を広げる市民ボランティア集団



事業内容

市民ボランティア集団「腕利きサポート部隊」は、市民がやってみたくと思ったことをプロ・アーティストの指揮のもと、実現する市民参加型アートプロジェクトです。市民はボランティアとして「腕利きサポート部隊」に登録することで参加が可能となります。例えば、新たな施設のロゴデザインやイメージカラーを担当したデザイナーが、それらを使った市民活動のチラシやポスター・Web制作の指導をすることで、市民は効果的な広報を安価で実現することができます。また、他には市民による椅子の設置や屋外植栽の提案を家具職人やランドスケープデザイナーと一緒に作りあげるなど、多種多様な活動が考えられます。それぞれの得意技を活かし、互いの活動を高め合うことのできる専門家と市民の合同プロジェクトとなります。

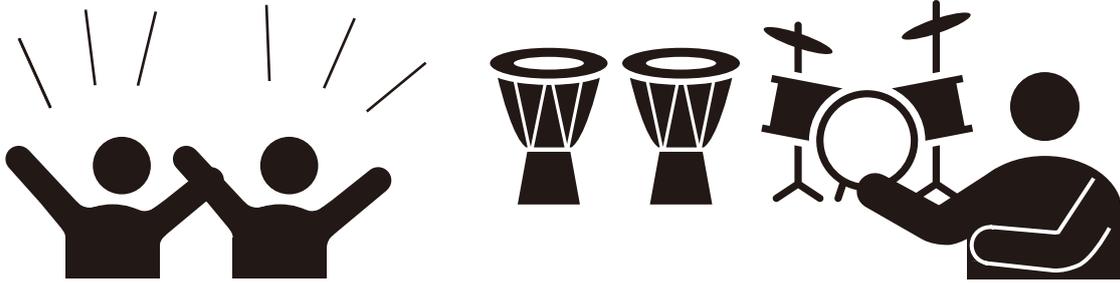
実施することで得られる効果・可能性

市内出身の若いアーティストが活躍できる場となる
趣味を続けていた市民が退職後に力を発揮できる

実現する上での課題

技術・管理体制
専門スタッフと市民の関係をつくる体制

「とまこまいキッズ基金」 未来のスター育成プログラム



事業内容

子どもたちが幼い頃から継続して芸術や文化に触れる機会をつくることは、将来活躍する人材を育成することにつながり、また市民全体の芸術・文化への関心を引きあげることもつながります。例えば、小中学生に対して吹奏楽でのホール利用を無料にしたり、自由に使うことのできる大型の楽器を用意したりすることで、日常的に良質の練習環境が確保されます。また、苫小牧出身で現在は第一線で活躍している先輩が定期的に集中講座などを開催し、子どもたちとその親たちの意識を高め、またその気運を次世代へと引き継いでいきます。とまこまいキッズ基金は、子どもたちへの投資は必ず未来に花開くと信じ、地域ぐるみでそれを応援する活動です。

実施することで得られる効果・可能性

子どもたちの親や友人など普段足を運ばない市民が施設を訪れる

実現する上での課題

何をどこまでサポートするのか判断し実施する運営主体

「おもてなしフェスタ」

異なる分野や場所で活動している市民が会う年に一度のイベント



事業内容

市内には、各地のコミュニティセンターや自宅などで小規模ながら趣味や文化・芸術活動に携わる市民が大勢います。そのような市民が新しい施設の共用空間に集まり、普段はできない共同企画や特別な演出を試みるフェスティバルを開催します。例えば、クリスマスのイルミネーションを子どもたちが制作し飾り付け、その舞台ではゴスペルサークルやコーラスサークルがクリスマスソングを披露します。その際、いつも自宅で家庭料理を練習している料理教室の特別企画としておもてなし料理講習会を開き、それらを来場者にふるまいます。年に一度、この時にしかできない新たなコラボレーションが生まれ、参加者も来場者も楽しめる企画となります。

実施することで得られる効果・可能性

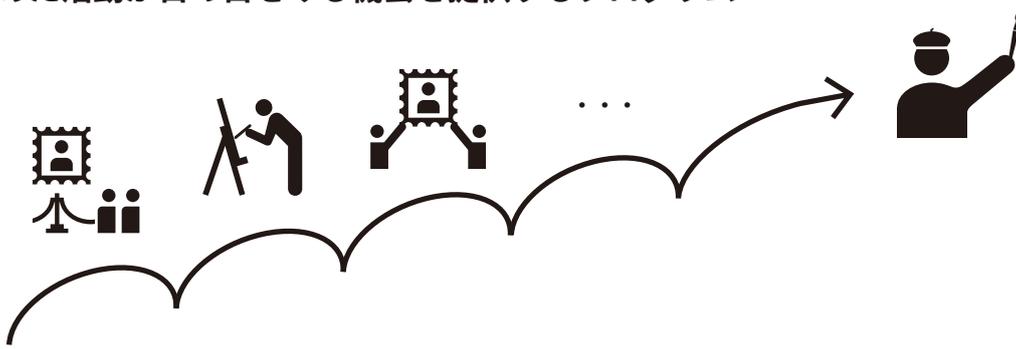
市内各所の地域活動のネットワークが生まれる
地域活動のモチベーションにつながる

実現する上での課題

イベントを企画する市民組織とそれをサポートし責任を持つ体制づくり

「ソロデビューへの道」

趣味で始めた活動が日の目を見る機会を提供するプログラム



事業内容

新しい施設では、初心者でも気軽に趣味として文化・芸術活動を始め、それらを広く披露する環境をつくります。例えば、最初は共用空間にてグループ展示に出展したり、フリーコンサートで来訪者の反応をみたりして腕を磨きます。その後、施設が主催する講習会やワークショッププログラムなど、いくつかの定められたメニューに参加し試験に合格すると、ギャラリーで個展を開く、ホールで演奏できるなど、少しずつレベルアップしていることを実感する環境での発表が可能となります。プロでなくても、いつかこの施設でソロデビューができるかもしれないというモチベーションを高めるプログラムです。

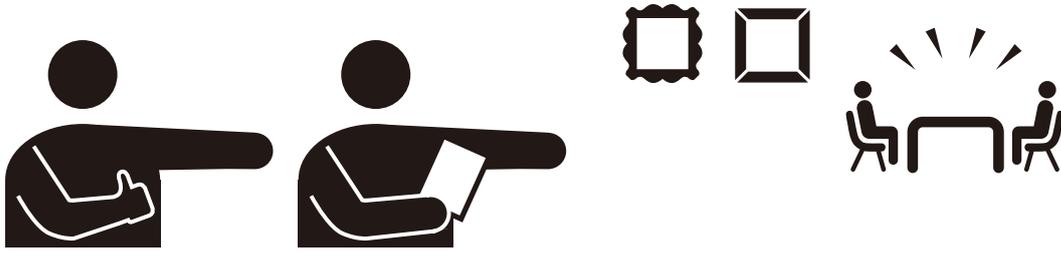
実施することで得られる効果・可能性

初心者でも気兼ねなく活動を発表できる場所を提供しながら、継続的な活動につなげ、文化・芸術活動の裾野が広がる

実現する上での課題

市民の活動がステップアップしていく講習会やワークショップの実施主体

「いきいきディレクターズ」 共用空間のイベント・雰囲気づくりを担う市民組織



事業内容

共用空間は、様々な市民が訪れ、自由に行き来、滞在できるスペースであることが求められますが、一方で使い方のルールや禁止事項が増えてしまうこともあります。施設全体、特に共用空間の雰囲気づくりや施設が主導するイベントの企画を実施することで、一般的には思いつかなかったような共用空間の使い方を提案することもできます。例えば市民でつくる団体が共用空間のディレクターとして企画の発案や運営を担い、自由な発想で市民がいきいきと過ごすことのできる雰囲気づくりを進めます。行政は、その企画を後押しする役割として禁止ではなくどのようにすれば実施できるのか解説策を考え抜き、企画の成功へつなげます。

実施することで得られる効果・可能性

施設企画のイベントや提案から市民発案が活発になる流れをつくることのできる

実現する上での課題

市民組織の存在
行政や他団体との協働